

【7月知事定例記者会見】7月19日(金)

● SAGA2024 国スポ・全障スポ

会期前競技のスタートまであと48日。国スポ期間中、多くの皆さんに佐賀に滞在してもらうため、会期前競技の期間を長く設定した。20市町と緊張感を持って準備を進めたい。

SAGA2024は、従来の国体の在り方やコンセプトとは異なる新しい大会を目指す。

施設整備

大会後の生かし方を重視した。例えば、開会式会場に屋根を増設しない。その1日のために巨額の経費をかける方針ではないから。また、近隣施設を含め1つの会場とみなす運用を国スポ事務局から承認を得た。飛び込み台を屋内にすると、大会後の維持管理費が多額になるため屋外に設置。大会後に解体が見込まれる設備は、県外競技とした。コストを軽減した分、SAGAアリーナやSAGAアクアに投資。大会後も県民の皆さんに喜んでもらえるようなハードを整備した。

世界のスポーツ選手が合宿に来ても、十分対応できる施設を作ったため、国スポ・全障スポの先に楽しみができる。国スポ・全障スポの生かし方は、その地域次第。

大会運営

・開・閉会式

自由で楽しさあふれる選手団の入場方式。

・競技会動画配信

配信数を従来の2倍に増やし、全国で観戦できる。大会周知に貢献したい。

・大会初！ナイトゲーム開催

仕事帰りにも観戦できる。

・表彰

団体戦での個人表彰など、選手の活躍により多くのスポットを当てる。

・Sagantier!(サガンティア)

大会ボランティアを「ゲームズメーカー」に位置づけ、みんなで盛り上げる。

・アスリートメニュー開発

大会後もスポーツアスリートや子どもに活用できる汎用性のあるメニューを開発。

組織体制 選手育成

SAGAスポーツピラミッド(SSP)構想の中でSSP推進局を設置。大会はSSP構想を実現する通過点。大会後もスポーツメンターが、県内で就職し留まる体制を整

えた。大会は、佐賀のスポーツビジネス、スポーツによるまちづくりの成功の姿の一つ。大会後もSSP推進局は存続し、レガシーを活かしていく。

8月21日18時から、SAGAアリーナで国スポ・全障スポ52競技の選手約1,000人が集結し、結団式を行う。

新しい表彰制度にチャレンジ！

1～3位は賞状とメダル、4～8位は賞状と記念品を授与。全障スポでは、陸上の伴走者やボッチャの器具調整サポーターにもメダルを授与する。

表彰対象は、新記録樹立、MVP、最高得点取得、団体表彰のみの競技での個人優勝。全障スポは、チームで感謝を伝えたい選手に賞を贈る。各賞は、地元の特産品。PRを兼ね佐賀らしさを演出する。

みんなで応援を楽しもう！

佐賀県選手をブルーアイテムで応援する企画。また、観戦ガイドブックは、初心者にもわかりやすい競技の説明を取り入れた。9月5日から「SAGATOCO」に「SAGA2024スタンプラリー」のバナーが登場。県内市町を回る観戦スタンプラリー。

佐賀をeスポーツの聖地へ！

SAGA2024の文化プログラムとして、12月14日・15日、SAGAアリーナで「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」を開催。大型ビジョンや音響、迫力ある映像や光の演出で、佐賀をeスポーツの聖地にしたい。

競技は、「ぷよぷよ」「パズドラ」「eFootball™」「Identity(5) 第五人格」の4種目。

パリオリンピック・パラリンピックに出場する佐賀ゆかりの選手にエールを

佐賀県ゆかりの選手は、ロンドン3名、リオ5名、東京15名に続き、今回のパリ五輪は16名が出場予定。熱い応援をお願いします。

● 見つけました、新たな佐賀の日本一

ジニ係数日本一

国スポ・全障スポで来県者が多くなる。県民の皆さんが、佐賀を紹介するアプローチの方法を研究中。今回は新たな視点の話。

佐賀県は、人口は41位だが、人口密度は16位。全国では高い部類に入るが、県民に

はその実感がない。それは、人口が分散しているから。

市町村ごとの人口の偏りを表す指標を人口分布ジニ係数という。この数値が小さいほど、人口の偏りは小さい。例えば、札幌に一極集中している北海道は、ジニ係数が高い。

佐賀は日本一人口が分散している県。一部の地域に人が集中することなく、県全体にほどよく人が暮らしている。それぞれの地域に文化と歴史がある多極分散型都市。県都佐賀市だけに集中していない。このことを県民の皆さんと共有したい。

過疎市町村の割合が低い

佐賀県は過疎市町村の割合が、九州で一番低い。

市町村のうち過疎エリアが全域のところを全部過疎という。県内の全部過疎は5市町、全体の25%だけ。福岡県は30%、鹿児島県は84%。

佐賀県は過疎地域が少ないのに、過疎といわれることがある。これはレッテル貼りのせい。事実を前提に議論しないと方向性を間違える。

佐賀県は「ほどよき日本一!」、これを「さがバランス」という。県内全域に、県民がバランスよく暮らしていることは誇り。

● 唐津市沖の洋上風力発電について

再生可能エネルギーの導入を地元と意見交換しながら、無理のない範囲で進めてきた。候補地域は、唐津沖の5つの島周辺、約140 km²。海上に風車を設置し、風の力を利用して発電する。これが実現すると、県内の家庭用電力の約8割を賄える。

海上は、陸上より風が安定している、騒音リスクが少ない、大型化が可能などの強みもある。唐津市沖は、洋上風力発電に適した海域。

これまで、唐津市、唐津市議会、玄海漁協からは要望が出ていた。この度、小川島漁協も法定協議会の参加を議決した。県が考える全ての利害関係者の同意が得られたので、国へ法定協議会の設置を要請する。

ここからは、国が法定協議会をつくる。そして、有望区域に指定し、協議が行われる。有望区域指定から先は未知数だが、引き続き丁寧に進めていく。

7月21日(日)はサガン鳥栖と一緒にタイを満喫!

国スポ・全障スポの関係で、タイフェスのスケジュールが変更になった。今年は、駅前不動産スタジアムで、タイフェス シリーズ8を開催。コロナ禍でも継続してきたイベント。

今年は、サガン鳥栖とサンフレッチェ広島の試合日を「佐賀さいこう!タイ感 DAY」とする。先着1万5000名にホッケーシャツをプレゼント。胸にサガン鳥栖、袖にバルナーズ、久光スプリングスのエンブレムがあり、どの会場でも応援できるグッズ。

唐津市出身の鷲尾伶菜さんの初ライブも開催、皆さんの前で初めて「Batons」を歌う。

スペイン・ガストロノミー交流大使考案至高のメニュー販売決定！

バスク地方の二つ星レストラン「ムガリッツ」のシェフ、アンドニ氏に交流大使を委嘱した。

コハダが成長するとコノシロと呼ぶ。成長すると食感が悪い。アンドニ氏は、オリーブオイルを使い、食感をよみがえらせ「サンセバスチャン風コノシロのアドバル」とした。そのレシピをもらい、「コノバル」と名付けた。8月1日から SAGA BAR で提供する。

高校生が挑む！超小型人工衛星 SaganSat（サガンサット）0号機宇宙へ

JAXA と連携協定した JAXAGA SCHOOL。高校生が独自に搭載ミッション（機能）を決定、衛星開発に挑戦した。いよいよ、0号機が8月に宇宙へ。9月頃に国際宇宙ステーションから宇宙空間へ放出する。データを解析し、令和7年2月に発表会の予定。

佐賀県の高校生の取り組みに期待したい。